

## 阿蘇山

### 概況

火山活動は、やや活発な状態でした。

孤立型微動の多い状態が続いています。火山性地震は、増加しやや多い状態となりました。

湯だまり中央部付近での噴湯現象は続いており、湯だまりの表面温度、南側火口壁下の温度も高い状態が続いています。

湯だまりの量は、減少傾向が続いています。

### 噴煙活動の状況

噴煙は白色・少量、噴煙高度の最高は 600m（8 月：500m）で、特に異常は認められませんでした（図 1、図 7）。

### 地震・微動活動の状況

B 型地震は、今月に入ってから増加し日回数が 50 回を超えたのは 7 日、11～19 日、22 日、28～30 日で、月合計は 1,377 回（8 月：281 回）でした（図 4、図 12）。A 型地震の月合計は 30 回（8 月：29 回）と少ない状態でした（図 3、図 10）。火山性地震の震源は、おもに中岳第一火口付近でした（図 15）。

孤立型微動は、2 日から増加し多い状態が続きました。月合計は 11,289 回（8 月：1,740 回）でした（図 2、図 8）。なお、火山性連続微動はありませんでした（図 14）。

### 火口や噴気地帯の状況

湯だまりの色は、1 日以降緑色（8 月：灰緑色）になり、濁りは無くなりました。

湯量は 5 日の現地観測以降、8 割（9 月 1 日：9 割）で推移するようになり、減少傾向が続いています。湯だまり中央部付近での噴湯現象は 5 月 21 日以降続いています。湯だまりの表面温度も 1 日 75、5 日 76、8 日 77、16 日 78、19 日 77、26 日 81 と高い状態が続いています（図 5）。また、南側火口壁下の温度も、1 日 341、5 日 296、8 日 397、16 日 386、19 日 356、26 日 386 と高い状態にあります（図 6）。

（温度測定は、赤外放射温度計による）

陸上自衛隊の協力を得て、2 日に上空からの火口周辺の観測を実施しました。

中岳第一火口内は常に噴煙に覆われ、火口内全体を見渡すことができなかつたため、一部の湯だまりと火口壁しか確認できず、湯だまりの量は不明でしたが、色は緑色でした。また火口周辺には、異常を示す現象はありませんでした。

### 地殻変動活動の状況

GPS による地殻変動観測では、草千里 - 砂千里浜、草千里 - 仙酔峡、砂千里浜 - 仙酔峡の各観測点間の基線長には、火山活動に起因する変化はありませんでした（図 16）。

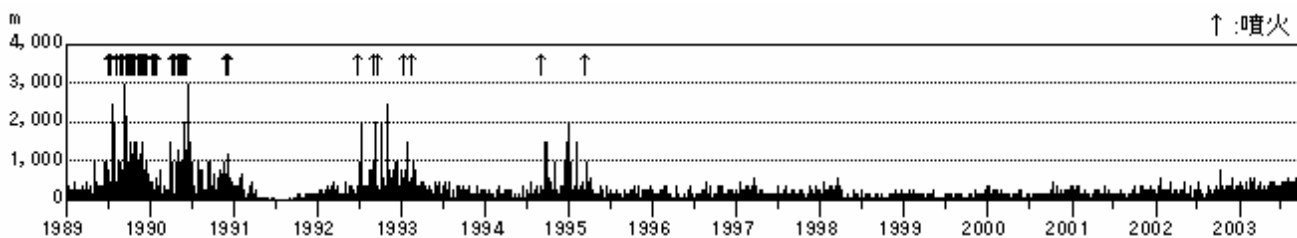


図 1 日別噴煙最高高度(1989 年 1 月 ~ 2003 年 9 月)

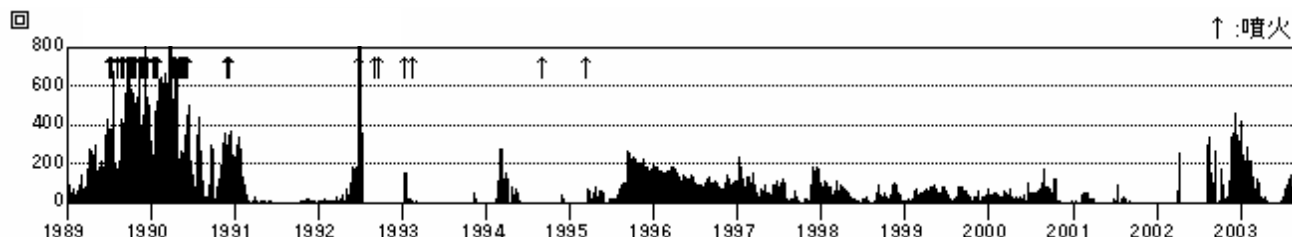


図 2 孤立型微動の日別回数(1989 年 1 月 ~ 2003 年 9 月)

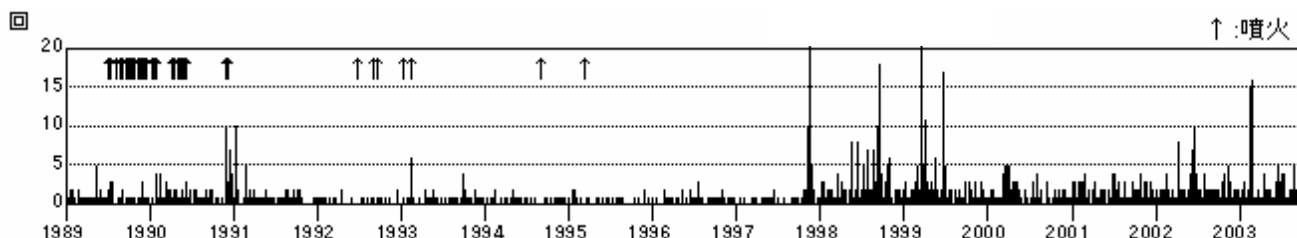


図 3 A 型地震の日別回数(1989 年 1 月 ~ 2003 年 9 月)

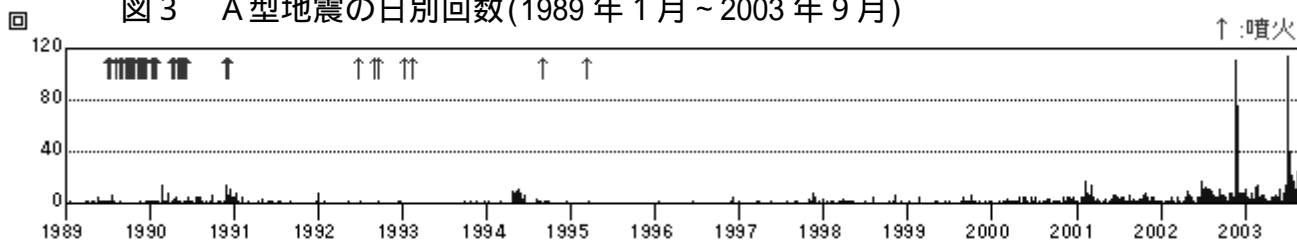


図 4 B 型地震の日別回数(1989 年 1 月 ~ 2003 年 9 月)

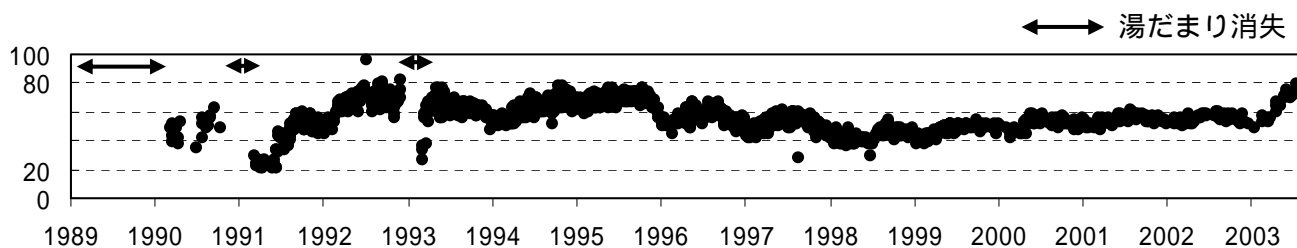


図 5 湯だまりの表面温度(1989 年 1 月 ~ 2003 年 9 月)

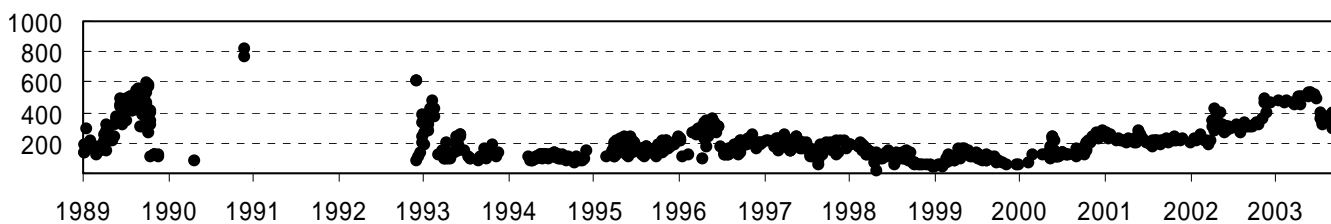


図 6 火口底 ( 壁 ) の温度(1989 年 1 月 ~ 2003 年 9 月)

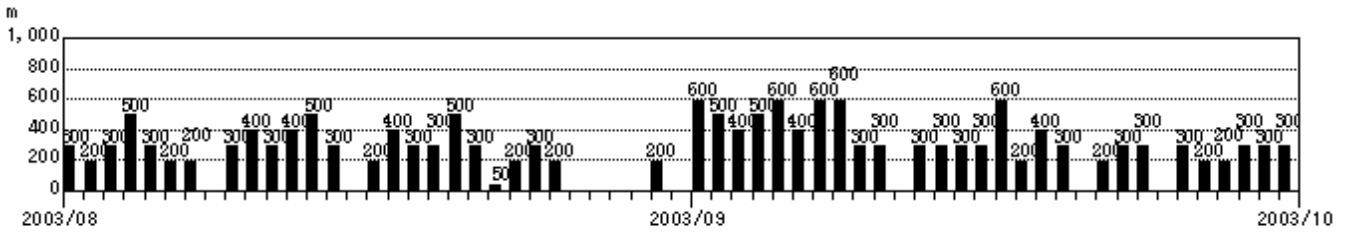


図7 日別噴煙最高高度(2003年8月1日~9月30日)

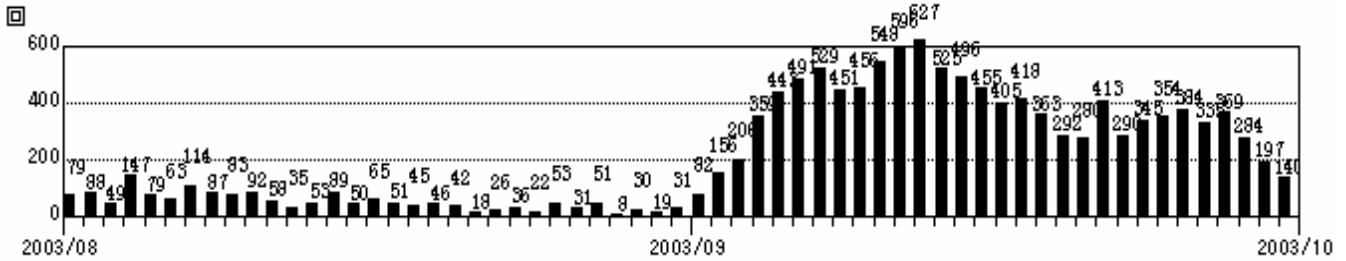


図8 孤立型微動の日別回数(2003年8月1日~9月30日)

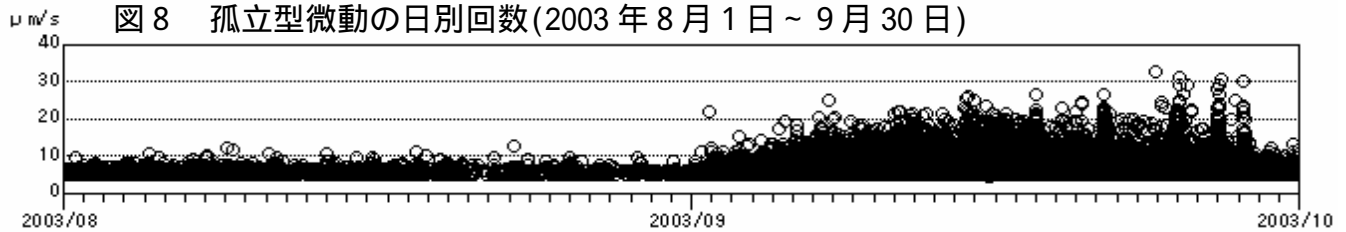


図9 孤立型微動の最大振幅(A点南北動)(2003年8月1日~9月30日)

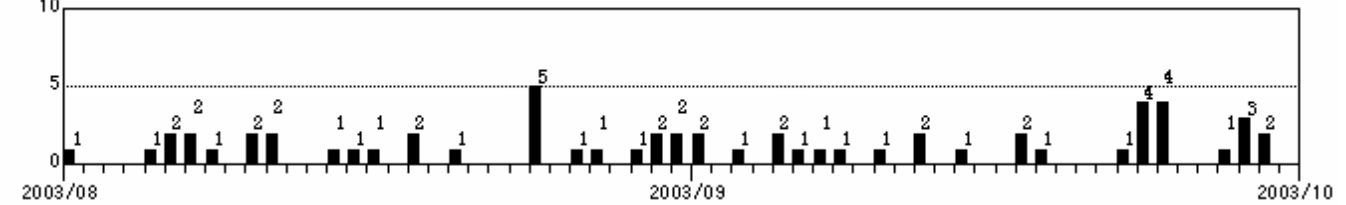


図10 A型地震の日別回数(2003年8月1日~9月30日)

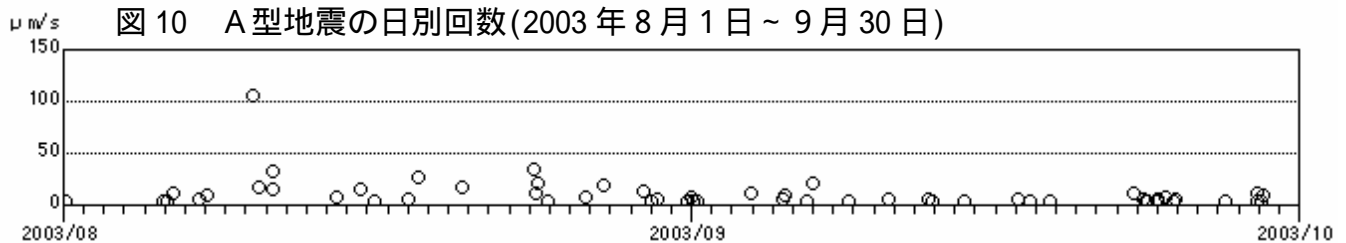


図11 A型地震の最大振幅(A点上下動)(2003年8月1日~9月30日)

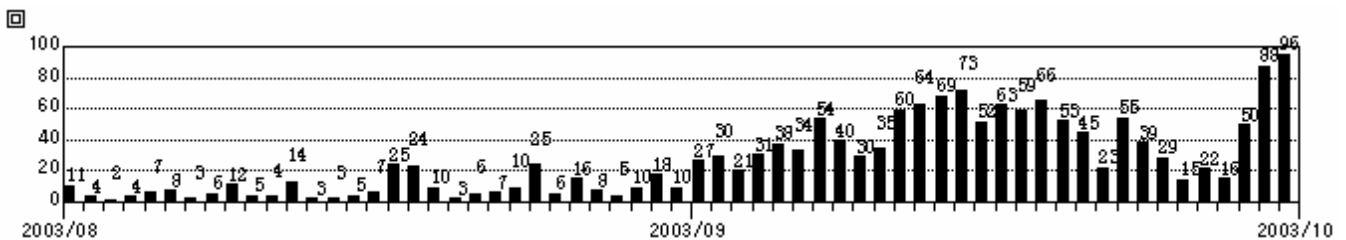


図12 B型地震の日別回数(2003年8月1日~9月30日)

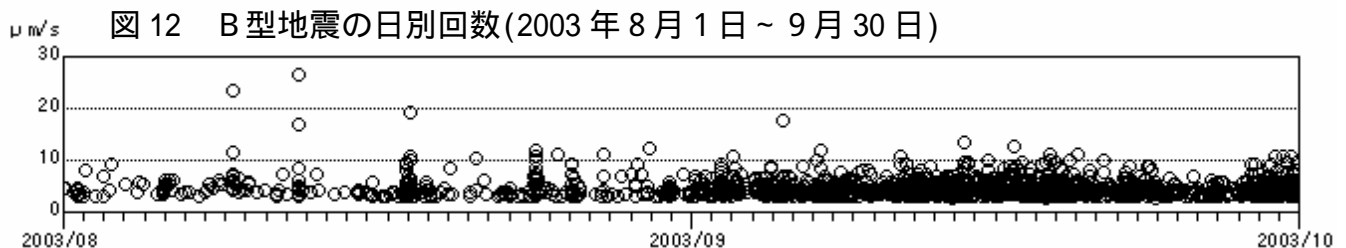


図13 B型地震の最大振幅(A点上下動)(2003年8月1日~9月30日)

阿蘇山

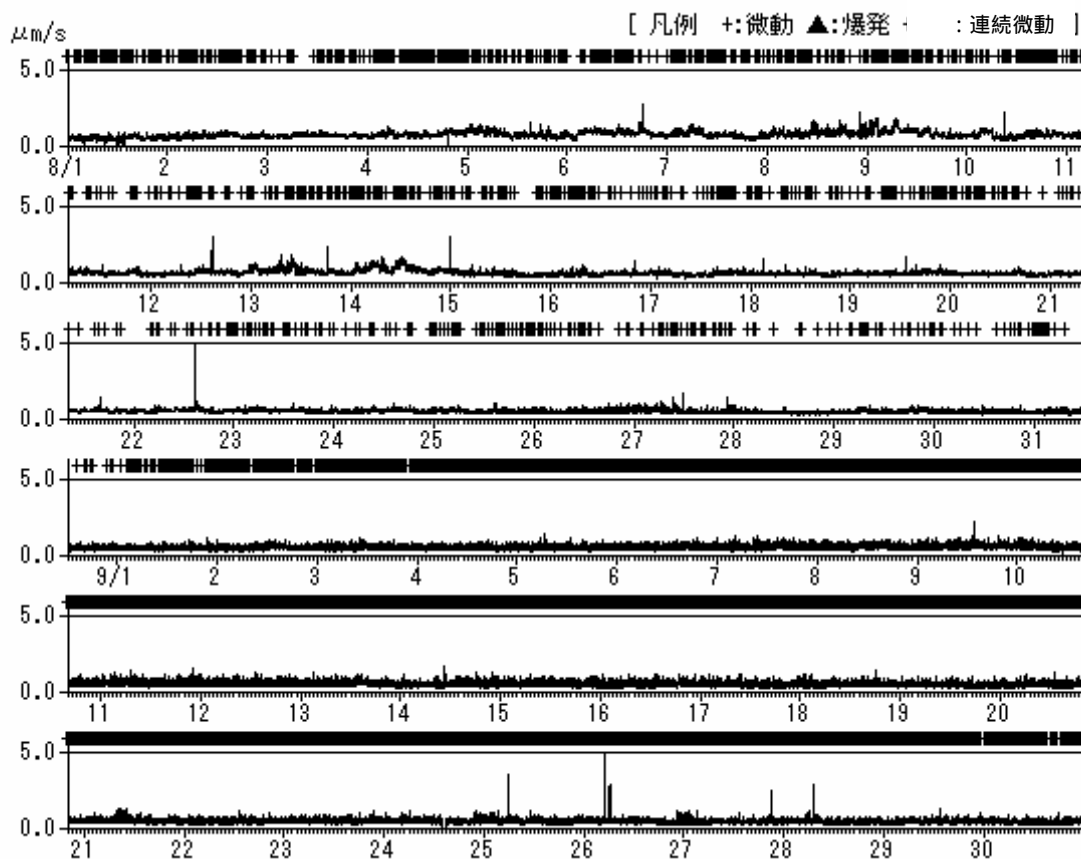


図 14 1 分間平均振幅の時間変化 (A 点南北動) (2003 年 8 月 1 日 ~ 9 月 30 日)

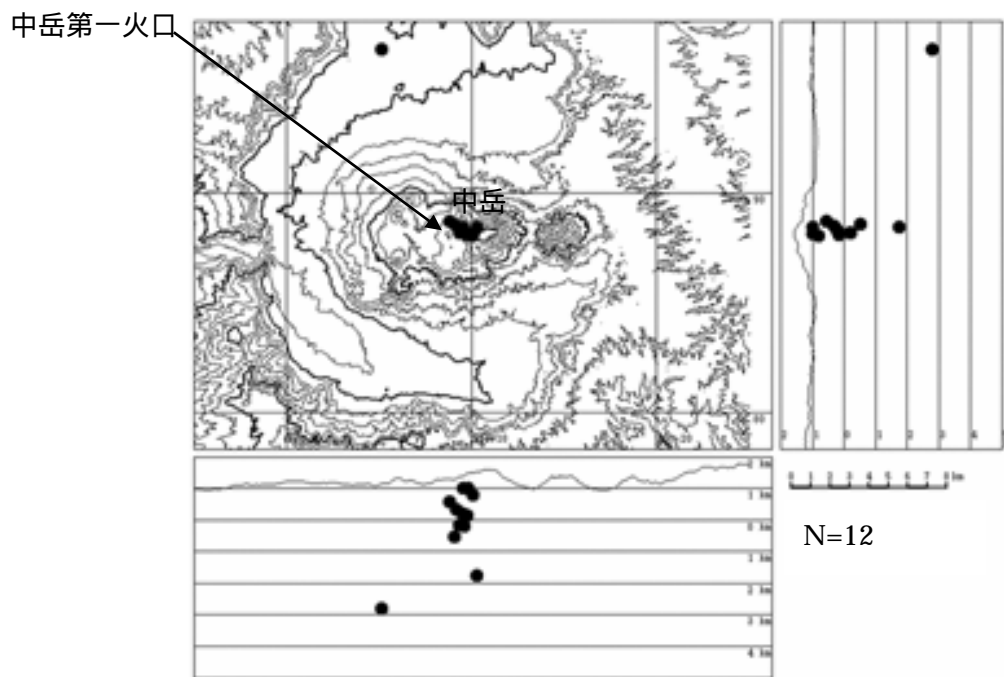


図 15 火山性地震の震源分布 (2003 年 9 月 1 日 ~ 30 日)

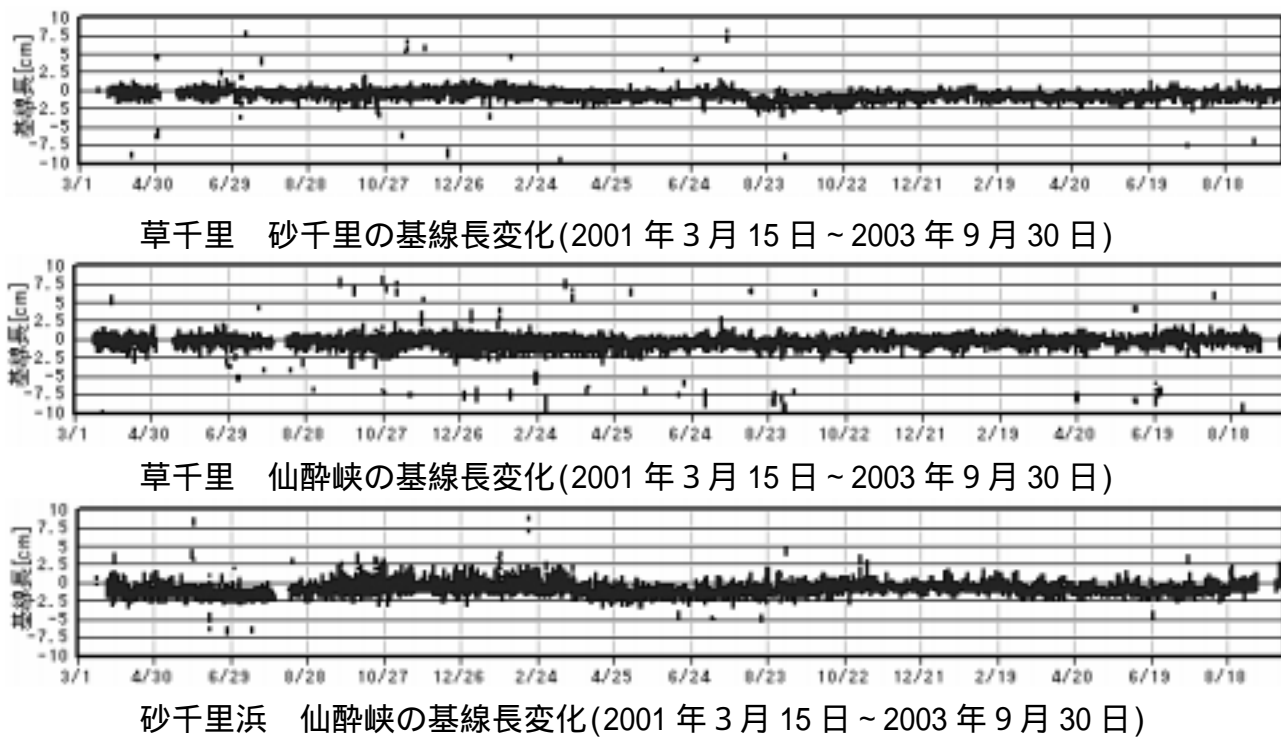


図 16 GPS による基線長変化

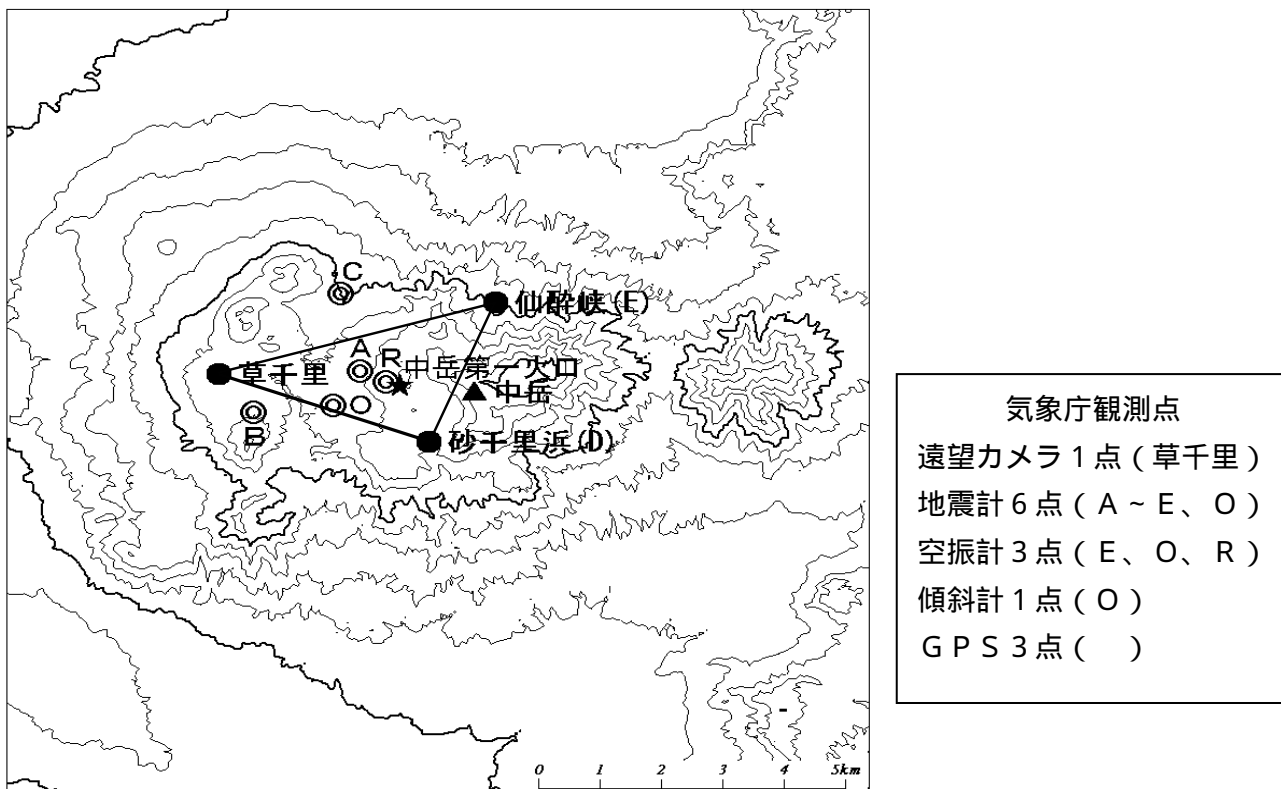


図 17 観測点位置図